

尼崎市昭和通の長尾クリニック院長で、本紙兵庫総合面の連載「Dr.和の町医者日記」を執筆している長尾和宏医師(53)が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者を「視診」「触診」「問診」した記録を書き下ろした現地ルポルタージュ「共震ドクター 阪神、そして東北」を出版した。

Dr.和 ルポ本を出版

「町医者」が診た被災地

支援活動克明に記録

長尾医師は阪神大震災で市立芦屋病院の勤務医として災害医療に携わった。東日本大震災では4月28日から8日間にはわたって岩手、宮城、福島各県を巡り、医療支援や被災者への傾聴などのボランティア活動に取り組んできた。

長尾医師は被災地での経験を踏まえ、本のあとがきには「防災とは『逃げるこ



長尾和宏医師
と『最高の予防医療』という
ことが大きい



共震ドクター

阪神、そして東北
長尾和宏・熊田梨恵著



出版された「共震ドクター
— 阪神、そして東北」

な教訓となった」と記した。さらに「被災者や患者さんと共に震える医者でありたい。震災と一緒に寄り添い、心の震えまでも共有したい」と決意を述べている。

また、被災地での活動や今後の支援策などをテーマにした医療情報紙編集長、熊田梨恵さんとの対談も掲載している。

ロハスメディア刊。1470円。問い合わせは、ロハス・メディカル事務局(☎03・5771・0073)。